

# Echo

NO. 123 平成 15 年 12 月 1 日

発行：(社)福島県臨床衛生検査技師会

〒960-1247 福島市光が丘1番地

福島県立医科大学附属病院検査部

発行責任者：比佐 哲夫

編集委員長 金子 隆子

TEL.024-548-4290

## 日臨技生涯教育研修制度の概要と履修状況について

県技師会生涯教育研修委員長 青木富美男

今回、日臨技が現在実施している生涯教育研修制度について、よく理解されていない点もあるようなので「日臨技生涯教育研修制度ガイドライン」を参考に、制度の基本概要および当福島県技師会の取り組みと履修状況について報告いたします。

なお、詳細については「医学検査」VOL.51 NO.5 747～790 2002 のカリキュラムを参照下さい。



日臨技生涯教育研修制度についての基本事項

### 1. 目的

医学・医療の発展によって、臨床検査は、量的にも質的にも著しく拡大している。これに伴って、

臨床検査技師・衛生検査技師（以下検査技師）の業務も多様化している。この結果、検査技師の知識・技能の質的向上が社会的にも要求されている。

このような環境の変化に、検査技師が自らの意思で正しく適応し、臨床検査を担う者として生涯学習に努め、資質の向上に努めることを組織的に援助するものである。

### 2. 現在までのあゆみ

1992年4月 生涯教育研修制度発足

1992年4月～1995年3月

再教育研修コースの試行

1995年4月 一般教育研修課程スタート

「生涯教育研修制度ガイドライン」発行

1998年9月 一般教育研修課程と専門教育研修課程の2課程制に及びガイドラインの改訂

2001年12月日臨技総合情報システム(以下JAMTIS)構築に伴いガイドライン改訂

### 3. 制度の基本

課程は「一般教育研修課程」と「専門教育研修課程」

に大別される。

#### 1) 一般教育研修課程

##### (1) 教育研修の対象

全会員を対象に研修教科を設定し、研修開始から3年間(1サイクル)を1区分とし履修するシステム。

##### (2) 教科(カリキュラム)

基礎一般教科「A教科」

基礎専門教科「B教科」

臨床専門教科「C教科」

##### (3) 研修方式

会場研修

学会、研修会、講習会、総会等

自宅研修

出版物、メディア、論文投稿等による研修で、「自己申告書」の提出が必要。

評価点数の設定

日臨技の「修了証書」を受けるには、3年間で100点以上を必要とする。なお、内訳として次の教科のバランスが必須である。

A教科(15点以上)

B教科(25点以上)

C教科(60点以上)

合計 100点以上

##### (4) 履修状況の確認

履修通知書の発行

一年分の研修実績が「履修通知書」として都道府県技師会から送付される(当県としても発行を検討中)

終了証書の発行

三年の履修サイクルで所定の点数を取得した会員には日臨技から「修了証書」が発行される。

##### (5) 主要教科の解説

基礎一般教科(A教科) 基礎専門教科(B教科) 臨床専門教科(C教科)のカリキュラム一覧については「医学検査」VOL.51 NO.5 747～790 2002のカリキュラムを参照下さい。

## (6) 履修評価の認・否に関する具体例

### 認定される主な例

・県技師会及び日臨技の定款上の「総会」で、合わせて年4回まで

・主催・共催の認定を受けた「健康展」、「検診事業」、「献血事業」

### 認定されない例

・スポーツ大会、趣味のグループ活動  
・ラジオ、テレビ英会話等  
・個人参加の「文献輪読、抄読会」「語学教室」  
・「技師長会」「施設責任者連絡会議」「役員会」「幹事会」

・「新年会」「受賞記念会」「式典」「祝賀会」

・メーカー主催の研修会など

### 自己申告を行う場合

自宅研修及び関連学会・団体・登録団体等(上記記載カリキュラム参照)が実施する学術集会に参加した場合は会誌「医学検査」に綴り込まれている「自己申告書」用紙(様式5)に記入して、県技師会事務局に提出して下さい。

## 2) 専門教育研修課程

専門教育研修課程は「管理運営課程」「制度管理課程」「遺伝子検査課程」の3種があり、履修単位は各課程ごとに120単位となっており、履修資格として一般教育研修課程を1サイクル以上修了した者と制限がある。なお、詳細についてはカリキュラムを参照下さい。

### 当県技師会の取り組みと履修状況

日臨技のJAMTISが運用されてからは、生涯教育研修委員会の各支部選出委員をはじめ、各支部の生涯教育行事入力担当者の協力のもとに、スムーズに行事及び参加者登録が出来るようになりました。ここに県技師会の一般教育研修課程履修状況を記載いたします。

・平成7~9年(1サイクル) 3名  
・平成8~10年(1サイクル) 2名  
・平成9~11年(1サイクル) 2名  
・平成10~12年(1サイクル) 49名  
・平成11~13年(1サイクル) 33名  
(各支部内訳) 県北2、県南24、会津2、いわき5、相双0

・平成12~14年度(1サイクル) 30名  
(各支部内訳) 県北6、県南9、会津9  
いわき6、相双0

### 今後の取り組みに対する課題

行事登録は開催日以前にしか登録できないので必ず守ってもらう。

県学術部及び各支部でAとB教科の点数取得が出来る研修会を多く取り入れてもらう。

関連学会・団体等の研修会出席者に対する自己申告書提出の啓蒙活動。

関連団体との共催による研修会を多く取り組

む。

以上生涯教育研修制度について要点をまとめてみましたが、今後各支部等で開催される研修会に積極的に参加され、修了証書を1人でも多く取得されることを期待します。

なお、次の方が生涯教育研修委員ですので不明な点がありましたらお問い合わせ下さい。

県北支部 武田江美子(保健衛生協会)

県南支部 大河原千恵(太田熱海病院)

いわき支部 帯施 晃(小名浜生協病院)

相双支部 遠藤辰浩(公立相馬総合病院)

会津支部 小柴静子(県立会津総合病院)

県学術担当 服部修作(保健衛生協会)

## 第36回福島医学検査学会ならびに 平成16年度(社)福島県臨床衛生検査技師会総会 開催要項

1. 開催期日:平成16年5月22日(土)~23日(日)

2. 開催会場:磐梯町 アルツ磐梯

ロッジ&セミナーアルツ

【講演・パネルディスカッション・一般演題・総会・懇親会・宿泊等すべて同施設内】

3. 学会・総会内容:

市民公開講座 5月23日(日)

「二次予防から一次予防へ

栄養ケアマネジメント」

講師 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部

栄養学科教授 杉山 みち子 先生

パネルディスカッション 5月22日(土)

「予防医学と臨床検査」二次予防から一次予防へ

~ 検診結果の今後を考える ~

パネリスト

1) 健康づくりのための県の取り組み

-健康福島21計画-

福島県保健福祉部(演者未定)

2) 基準範囲共有化への取り組み

福島県臨床衛生検査技師会精度管理委員長

遠藤 隆(太田西の内病院)

3) 生活スタイル重視の検診へ 新たなアプローチ

山口 順市(呉羽総合病院)

4) 乳房検診の現状と問題点

小針文美子(竹田総合病院)

一般演題発表(発表7分・質疑3分)

プロジェクター1台・パソコン 5月23日(日)

平成16年度(社)福島県臨床衛生検査技師会総会

5月22日(土)

懇親会(ナイトセミナー)

3部門(生理・一般・血液) 5月22日(土)

4. 学会参加費 会員 3,500円

5. 学会事務局 竹田総合病院 臨床検査科

会津若松市山鹿町 3-27 TEL0242-29-9824

事務局長 星 左京

# 検査のお仕事

「認定輸血検査技師として」

福島赤十字病院 検査部 菅野 和典

私と輸血との出会いは、今から20数年程前にさかのぼります。新人の頃血清の担当で、もちろん輸血も含まれていました。交差試験で始めて凝集(+)を目にした時はわ



が目を疑いました。その当時、担当して1年近くも凝集を見た事がなかったので、しないものと決め付けていましたから驚きでした。当時血液センターに勤務されていた佐藤勝敏さんに「抗Lerge E抗体じゃないかな?」「??ら~じい~抗体?って..何ですか?」私の頭の中にはその単語はありませんでしたので、何の事かさっぱりわかりませんでした。それからが悪戦苦闘の連続でした。血液センターには何回も通い、佐藤さんに御指導をいただき、又大変ご迷惑をかけた事を思い出します。又、専門書も何冊か購入し読んだ記憶があります。この頃に今の基礎ができたと思っています。

その日から輸血に対しては緊張の連続の毎日で、早く他の部所に配置換えをして欲しいと思っていました。今でも判定する時は「+になるなよ!」と心で叫びます。(うん、うん)と、うなずいていらっしゃる方は多分多いと思います。

さて認定輸血検査技師制度発足以来、日本輸血学会・日本臨床検査医学会・日本臨床衛生検査技師会・日本臨床病理同学院の4団体が認定する検査技師が、現在全国で1000名を越えております。私は1997年第1回通常認定試験(試験地は福島県立医大)に臨み、何とか合格を頂きました。福島県全体での認定技師は、現在19名で東北でもトップクラスの人員です。その多くの人たちは輸血の現場において、「より安全な輸血医療の為」に貢献しております。これから認定技師を目指す人たちも沢山いると思います。合格率が年々下がってきていますが、是非頑張りたいと思います。認定技師として微力ながら協力は惜しまないつもりでおります。私は認定技師としてまだまだ未熟で、勉強する事が山ほどあります。奥の深い仕事ですね。

ここで、私たち輸血に携わる技師の一つの目標として、県立医大の大戸教授の言葉を挙げておきます。これは先日、北九州で開催された「第51回日本輸血学会」抄録集からの抜粋ですが、1.輸血検査によく精通し、信頼される技術を有し、2.輸血治療にも明るく、3.しかもその知識を若年の技師を育成することや、4.チーム医療の一員として医師・看護師・管理者などを納得させる能力にも優れ、5.最新の知識を得るべく論文に眼を通し、6.日常の業務にも研究的な視点を忘れず研鑽する技師であれ。

改めて身が引き締まる思いです。同胞の皆さん、頑張りましょう。ベ-スは検査技師だという事を自覚して。

## 山崎美一氏叙勲の栄をうける

この度、県技師会として推薦した、元(社)福島県臨床衛生検査技師会会長の山崎美一氏が長年にわたる臨床検査業務に尽力をされた功績に対し、去る11月3日秋の叙勲において瑞宝双光章を授与されました。

本人はもとより技師会におきましてまいへん喜ばしい限りです。おめでとうございます。

尚、比佐哲夫氏(社団法人福島県臨床衛生検査技師会会長)、藤沢卓三氏(福島労災病院技師長)、金子隆子氏(技師会いわき支部長)発起人となり叙勲受章祝賀会が開催されます。平成16年1月24日(土)午後6時より、いわきワシントンホテルにて開催されます。参加希望の方は福島労災病院臨床検査部、菅野英明(0246-26-1111)まで問い合わせてください。

### 健康まつりに協賛

会津支部厚生副部長 石田 久敏  
(坂下厚生総合病院)

秋晴れの中、喜多方市民健康祭りが10月19日行われました。今年も喜多方市からの要請により協賛して参りました。

この市民健康祭も歴史が古く「自分の健康は自分でつくる」を目的に、各種健康相談、健康チェックや展示などを行います。私ども会津支部からはメーカーの方も含めて21名で参加しました。検査内容は検尿コーナーでは一般定性とソルト、採血した検体で血算と血糖値、それと骨密度測定の大きく分けて3つのコーナーです。それぞれのコーナーで技師が検査結果を説明し、骨密度の結果は地元の整形外科医に相談・指導を受けられるというかたちです。

毎年楽しみにしておられるかたも多く、昨年はねんりんピックの関係で骨密度測定しかなかったので、「ことしは皆やってもらうべ。」

という声も多く聞かれました。健康に関する意識の高揚と動機づけに少しでも協力できたことを大変うれしく思います。

最後になりましたが、ご協力を頂きました皆様に、この誌上をお借りして厚くお礼申し上げます。



## ...新時代の検査室をめざして...

いわき市立総合磐城共立病院 山内郁子

我々臨床検査技師に求められている役割は正確な検査結果をより早く患者様のために提供することであり、また、地域の基幹病院として高度・専門医療の充実を図り地域医療に貢献することである。臨床検査が複雑化する中で益々重要度が高まり、さらに目まぐるしく変化する医療環境のもと、高精度な検査結果を迅速に報告しなければならない。

今回、当施設では高度な専門医療の充実を図り、又検査室の質の向上と効率的運営を行うべく業務改革を行った。まず、検体検査部門の検査業務の集約化と大幅な自動化を行い、検査サービス並びに臨床支援の向上を図る事、さらに業務の省力化を図り新たに高機能な検査情報システムの導入を行った。

現在まで当施設では、生化学の分析機器をはじめ検査機器の多くは老朽化が激しく、用手法の項目が多くあり、検体の分離もすべて手作業で行っていた。又腫瘍マーカー等検査依頼の多い項目が外注となっていた為に効率的ではなかった。

検査システムは平成6年から、又、オーダリングシステムは平成7年から実施しているが、現在2年後の電子カルテ化に向けて検討中である事から、検査情報システムを含め検体検査の構築が必須であった。

今回導入した情報システムはA&TのCliniLanで、同時に高速自動分注機能付きの検体搬送システムCliniLogも導入し、検査工程の大幅な自動化を図り、迅速検査体制の構築と効率化を図った。その結果、検査依頼件数の増加と外注検査項目のうち依頼件数の多い内分泌ホルモン、腫瘍マーカー、免疫検査、看護部で測定していた血沈検査等の検査室測定が可能となった。検査件数の増加は収益アップに繋がった。又最新鋭の自動分析装置を検体検査全ての部門に取り入れ、高精度の精度管理体制を構築することができた。搬送ラインを取り入れた分析装置は全自動生化学分析装置、腫瘍マーカー等の免疫分析装置、そして自動分注機を一本のラインで繋いだ。さらに血糖検査とHbA1c、尿一般検査と沈渣分析装置にも搬送ラインを導入したことにより、大幅な効率化・省力化が可能となり、多くの検査項目の導入と、看護部門への支援体制として中央採血室への応援が可能となった。輸血検査においても新輸血システムと全自動輸血検査装置の導入により検査結果の記入ミスや入力ミス等がなくなり、輸血事務等の業務も緩和された結果、血沈検査を新たに実施することが出来た。又微生物検査においても細菌自動分析装置と細菌システムの導入により、特に結核菌の培養等が短縮された。

現在、検査情報システムに出現実績ゾーン法を取り入れる為に検査データを蓄積中であり、可能になれば自動的に再検や検査値のチェック体制ができ、より高度な検査結果の検証と精度管理を向上することができると思われる。

(社)福島県臨床衛生検査技師会一般研究班

## 一般検査研修会に参加して

呉羽総合病院 志田 尚平

日曜日の朝早く100人の人が集まりました。皆さん勉強熱心で感動しました。

それ以上に前の日から準備していただいた赤間孝紀さん(大原総合病院)菅野英明さん(福島労災病院)たちに感動しました。

昨今の厳しい検査の環境の中、自分が担当しているもの以外の分野の標本を作り講義していただけることに毎回頭がさがる思いです。内容も異型細胞を中心に、一般検査での有用性を高める内容で大変参考になりました。今後もこのような勉強会に参加し、役に立つ検査を目指したいと思いました。



## - 訃報 -

さる、9月1日当会の元会長(第10代)でありました遠藤庄蔵氏が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を捧げお知らせいたします。享年 79歳

遠藤庄蔵氏においては第38回日本臨床衛生学会の学会長をはじめ会発展に尽力されました。

ご冥福をお祈り致します。

編集後記 師走の声を聞き、冬本番を迎えます。この時期、関連の研修会が2つあって福島市と郡山市で開催されます。いわきに住む私は白い安達太良山や吾妻連邦を眺められることが、楽しみでもあります(TK)